Engineer

フィード

購読できる形式にしたページの更新情報

どのようなものか

フィードは、固定のアドレスに置かれ、サイトの最新の記事などを、ソフトウェアが読める形で並べたファイルです。各項目には、題名、日付、変わらない識別子、通常は本文もあります。プログラムが定期的に取得し、新しいものだけを人へ見せられます。ウェブフィードや配信用フィードとも呼び、形式にかかわらず、すべてを「RSSフィード」と呼ぶ人も多くいます。

違いは、情報が動く向きです。ニュースレターは、発行者がアドレス一覧を持ち、全員へ送る、プッシュ型です。フィードは、取得する側から動く、プル型です。発行者がサーバーへ一つのファイルを置き、各購読者のフィードリーダーが取得し、前回の複製と比べ、初めて見る項目を保持します。発行者は誰が購読したかを知らず、購読者はメールアドレスを渡さず、やめるには、リーダーの一行を消すだけです。

ウェブ上のほぼすべてのフィードを、三形式が担います。RSS 2.0はXMLで、項目の日付はRFC 822形式の `Sat, 07 Sep 2002 00:00:01 GMT` のように書き、仕様自体が、形式を凍結済みとします。Atomは、IETFが2005年12月にRFC 4287として公開しました。こちらもXMLで、より厳密です。各フィードと項目には、恒久的な `id` と、RFC 3339形式の `updated` のタイムスタンプがあり、どこかに著者の記載が必要です。JSON Feedは、2020年8月からバージョン1.1で、XMLを解析したくない開発者向けに、同じことをJSONで表します。

ページは、head内の `<link rel="alternate">` 要素で、フィードの場所をソフトウェアへ知らせます。各要素は、 `application/rss+xml` 、 `application/atom+xml` 、 `application/feed+json` のいずれかのメディアタイプを指定します。そのため、リーダーは、サイトの通常のアドレスだけから、フィードを見つけられます。

概念を判断に生かす

「フィードとは？」を実際の判断に生かしましょう。その概念を、開発または購入するシステムに結び付けて考えるお手伝いをします。 表示が速く、検索で見つけやすく、文章を変えるたびに料金が発生せず、自社の担当者が編集できるサイトをつくります。

サービスを見る お問い合わせ →

用語の背後にある前提を検証する

解説とリンク先の実績を参考に、プロジェクトについての質問を整理してください。ツールを選ぶ前に、前提を一緒に検討できます。 HTML/HTML5でWebアプリケーション100個を開発 — 100 構築したWebアプリケーション

HTML/HTML5でWebアプリケーション100個を開発 お問い合わせ →

なぜ重要なのか

最初の判断は、そもそも公開するかです。フィードは、ソーシャルネットワークより小さい読者層のために、テンプレートを作り、検証し、何年も安定させる、追加の出力です。一方、プラットフォーム、アカウント、配信先一覧のどれも不要な、唯一の購読経路です。投稿と、それを読みたいと求めた人の間に、順位付けのアルゴリズムも入りません。

二つ目は、どの形式にするかです。RSSしか受け付けないリーダーも、Atomしか受け付けないものもあり、購読者のリーダーがどちらを求めるかは、先に分かりません。両方を出せば、二つ目のテンプレートを維持する負担で、その隙間を埋められます。JSON Feedは、JSONを扱いたい開発者のソフトウェア向けに、三つ目を加えます。形式が増えるたびに、同じ項目、識別子、日付を保つファイルも増えます。

三つ目は、各項目に入れる本文の量です。全文フィードなら、リーダー内で全部読めます。リーダーを使う理由の大きな部分ですが、発行者のページ閲覧数は減ります。要約だけなら、項目ごとに全読者をサイトへ送ります。どちらも誤りではなく、文章が届く範囲と、ページ自体への訪問回数の、どちらを選ぶかです。

答えが何であっても、アドレスは約束になります。リーダーは、受け取ったURLを、それぞれが決める間隔で繰り返し取得し、何年も続けるものも多くあります。RSSでは、`ttl` で分単位の間隔を提案できますが、リーダーは無視してもかまいません。一度公開したフィードのアドレスは、残り続けます。

実際の活用例

このサイトは、ホームページから、`/index.xml` のRSS、`/atom.xml` のAtom、`/feed.json` のJSON Feedという三形式を公開します。クレジットのページが、形式と検証サービスを挙げます。すべて全文を含みます。XMLを二つ出すのは、どちらか片方しか読まないリーダーがあり、確実にどちらか一つへ絞れな

いためです。W3C Feed ValidatorがAtomとRSSを調べ、JSON Feed Validatorが三つ目を調べます。W3Cのサービスは、JSON Feedより前からあるため、その形式を対象にしません。W3Cのサービスは、多くの項目の更新日が同じと警告します。ページは警告を隠さず残します。日付はgitの履歴から取り、多くのページを、同じ少数のコミットで書いたためです。

連絡先のページは、アカウントなしで会社の発信を追う方法として、フィードを案内します。ソーシャルプロフィールと並べ、三形式とも、公開するものすべての全文を含むと、改めて説明します。

三形式のどれも、手書きやリクエスト時の生成ではありません。サイトを作ったプロジェクトでは、実行時のバックエンドなしに、すべてをビルド時に生成します。一つのコンテンツツリーから、各ページを複数の表現で公開し、ホームページには、三つの配信フィードと、インストール可能なアプリのマニフェストも加えます。

問題が起きるところ

古い項目が、すべて新着として戻ります。 デザイン、ドメイン、テンプレートを変えた後、何か月も前に読んだ項目が、何十件も現れます。リーダーが項目を見分けるのは、Atomの `id` 、RSSの `guid` 、JSON Feedの `id` という識別子です。文字列が変われば、新しい項目になります。RFC 4287は、移動、移行、再公開の後も、項目の `id` を保たなければならないと明記します。恒久リンクがよい識別子になるのは、移動後も古い文字列を保つと約束している間だけです。RSSでは、 `guid` が何かも示します。仕様は `isPermaLink` の既定値を真としますが、このサイトは、それでも `isPermaLink="true"` を書きます。逆に推測するリーダーが、すべてを重複して取り込むためです。

ビルドのたびに、変更したと宣言します。 公開したものがなくても、再ビルドのたびにフィード全体の日付が進むと、その日付を見て新着を検知するソフトウェアが、何もないのに反応します。原因は、ビルド時の時計を使うテンプレートです。RSSは `lastBuildDate` を「チャンネルの内容が最後に変わった時刻」と定義し、Atomのフィード全体の `updated` も同じ意味です。代わりに、最新の項目から取るべきです。このサイトのAtomテンプレートも、そのため、最新の項目を使います。

文字の表示を変えた後、解析できなくなります。 リーダーはフィードの破損を報告し、検証サービスは、スマートクオートを含む最初の記事で、未定義の実体を指摘します。XMLが定義済みとする名前付き実体は、 `lt` 、 `gt` 、 `amp` 、 `apos` 、 `quot` の五つで、HTMLには、さらに何百もあります。引用符やダッシ

ュをHTMLの名前付き実体で出すMarkdownレンダラーは、ページでは問題なくても、XML要素内では致命的なマークアップを作ります。Atomの `type="html"` の内容が求めるように、入れる前にHTMLをエスケープするか、RSS Best Practices Profileが `content:encoded` に認める、CDATAセクションで囲みます。このサイトのAtomテンプレートは、内容をエスケープします。隣のコメントには、生のままでは、まったく解析できなかったと記録があります。

移動後に購読者が離れても、誰も知りません。 フィードには、購読解除ボタンも、人数が減る一覧もなく、分かるのは沈黙だけです。アドレスを変えたりファイルを消したりすると、古いURLを取得するすべてのリーダーが、エラーを受け取ります。元のアドレスで、フィード自体か恒久リダイレクトを返し続けます。このサイトは、既存のリーダーが取得する、使用中の生成ツールの既定パス、 `/index.xml` にRSSを保ちます。告知していない言語でも、項目がゼロの、整形式のフィードを生成します。リーダーは、404ではなく、有効な文書を受け取れます。

購読ダイアログで、二つのフィードが一つになります。 ページは二つを宣言しても、ブラウザー拡張やリーダーには、一つしか出ません。同じメディアタイプ、同じ題名の代替リンクは、同じフィードに見えるため、最後に見た方だけを載せます。それぞれに別の題名を付けます。このサイトは、サイト名の後に「(RSS)」「(Atom)」「(JSON Feed)」を付けます。

参考資料

- RFC 4287：Atom配信形式 — 必須要素、恒久的な識別子、RFC 3339の日付を定める、IETFの標準です。
- RSS 2.0仕様 — RSS Advisory Boardによる、凍結済み形式の、要素ごとの仕様です。
- JSON Feedバージョン1.1 — 同じ考え方のJSONでの表現と、バージョン1.0からの変更です。
- HTML標準：リンク種別「alternate」 — ページが、フィードの場所をソフトウェアへ示す方法です。
- W3Cフィード検証サービス — アドレスからRSSやAtomを検証し、各警告を説明します。

用語集

実際の制約に合わせて選ぶ

業務の流れ、既存のインターフェース、変更を必要とする利用者をお知らせください。検証可能な納品内容と、お客様のチームが保守を続けられる引き継ぎ内容を定められます。

料金を見る お問い合わせ →

用語を実務に結び付ける

「フィードとは？」がお客様の組織にどう当てはまるかをご相談ください。現在のシステムの具体例が一つあれば、話を始められます。

サービスを見る

welcome@engineer.company +45 50 10 61 84 デンマーク、コペンハーゲン

このページを持ち歩く

連絡先カード

心を込めて丁寧に制作： D.

CVR 45969703 · Tagensvej 105C, 3. th, 2200 København N

著作権 © 2025 – 現在 · Engineer ApS · すべての権利を留保します。

印刷元： https://engineer.company/ja/glossary/feed/